

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成27年7月23日(2015.7.23)

【公表番号】特表2014-511841(P2014-511841A)

【公表日】平成26年5月19日(2014.5.19)

【年通号数】公開・登録公報2014-026

【出願番号】特願2014-501262(P2014-501262)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/737 (2006.01)

A 6 1 P 13/00 (2006.01)

A 6 1 P 13/02 (2006.01)

A 6 1 P 13/08 (2006.01)

A 6 1 P 13/10 (2006.01)

A 6 1 P 13/12 (2006.01)

A 6 1 P 15/02 (2006.01)

A 6 1 P 15/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 K 9/48 (2006.01)

A 6 1 K 9/20 (2006.01)

A 6 1 K 9/68 (2006.01)

A 6 1 K 9/14 (2006.01)

A 6 1 K 9/08 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/737

A 6 1 P 13/00

A 6 1 P 13/02

A 6 1 P 13/08

A 6 1 P 13/10

A 6 1 P 13/12

A 6 1 P 15/02

A 6 1 P 15/00

A 6 1 P 43/00 1 1 1

A 6 1 K 9/48

A 6 1 K 9/20

A 6 1 K 9/68

A 6 1 K 9/14

A 6 1 K 9/08

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 43/00 1 2 1

【手続補正書】

【提出日】平成27年6月1日(2015.6.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

泌尿器科の炎症を治療または予防する医薬の製造ための使用における

a. 部分的若しくは完全硫酸化ヒアルロナン、または医薬的に許容可能な塩若しくはそのエステル、またはこれらの組み合わせ、または

b. 前記ヒアルロナンまたはその医薬的に許容可能な塩若しくはそのエステルが、少なくとも 1 つの硫酸基と、アルキル基またはフルオロアルキル基を含んでなる N-アセチルグルコサミン残基の少なくとも 1 つの第一級 C-6 ヒドロキシル位を含む、改変型ヒアルロナンまたは医薬的に許容可能な塩若しくはそのエステル、の使用。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の使用において、前記化合物が改変型ヒアルロナンまたは医薬的に許容可能な塩若しくはそのエステルであることを特徴とする使用。

【請求項 3】

請求項 2 に記載の使用において、前記アルキル基がメチルであり、前記フルオロアルキル基が少なくとも 1 つのトリフルオロメチル基を含むことを特徴とする使用。

【請求項 4】

請求項 2 に記載の使用において、前記 N-アセチルグルコサミン残基の C-4 ヒドロキシル位、前記グルクロン酸残基の C-2 位、前記グルクロン酸、またはそれらの任意の組み合わせの C-3 位で前記ヒアルロナンが硫酸化されることを特徴とする使用。

【請求項 5】

請求項 2 に記載の使用において、前記アルキル基はメチルであり、少なくとも 1 つの C-2 ヒドロキシルプロトン及び／または C-3 ヒドロキシルプロトンが硫酸基で置換され、かつ前記化合物の分子量が 2 k D a ~ 1 0 k D a であることを特徴とする使用。

【請求項 6】

請求項 2 に記載の使用において、前記化合物が部分的若しくは完全硫酸化ヒアルロナン、または前記医薬的に許容可能な塩若しくはそのエステルであることを特徴とする使用。

【請求項 7】

請求項 6 に記載の使用において、前記硫酸化ヒアルロナン又はその医薬的に許容可能な塩若しくはそのエステルの置換度が 3. 5 ~ 4. 0 であることを特徴とする使用。

【請求項 8】

請求項 6 に記載の使用において、前記硫酸化ヒアルロナンの平均分子サイズが 2 k D a ~ 1 0 k D a であることを特徴とする使用。

【請求項 9】

請求項 1 に記載の使用において、前記医薬が更に、消炎剤、解熱性剤、消炎の用に供するステロイド薬及び非ステロイド薬、ホルモン、成長因子、避妊薬、抗ウイルス剤、抗菌剤、抗真菌薬、鎮痛薬、催眠薬、鎮静剤、精神安定剤、抗痙攣薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬、鎮痙薬、抗潰瘍薬、ペプチド性アゴニスト、交感神経作動薬、心血管薬剤、制癌薬、またはオリゴヌクレオチドを更に含むことを特徴とする使用。

【請求項 10】

請求項 1 に記載の使用において、前記医薬が、静脈内投与、筋肉投与、皮下投与、経口摂取による投与、または経粘膜投与に適した製剤を含むことを特徴とする使用。

【請求項 11】

請求項 1 に記載の使用において、前記医薬が、経頬投与、舌下投与、経口投与、経膈投与、経鼻腔投与、経直腸投与、又は膀胱内注入に適した製剤を含むことを特徴とする使用。

【請求項 12】

請求項 1 に記載の使用において、前記泌尿器科の炎症が前記膀胱、尿道、尿路上皮内膜、腎臓、前立腺、膣、子宮、またはそれらの任意の組み合わせの炎症を含むことを特徴とする使用。